

シテ黒文アリ、脚亦淡黄色、

〔喚子鳥下〕きつ、き

ゑがひ 生五分、あをみ入、
粉壹匁

大ききひよ鳥にはそく、かしらくれなる、はらの尾のきはくれなる、せはくろ白のふ有見事なる
鳥なれども、かごをやぶりてかひ鳥に成がたし、

きげら

ゑがひ 生五分、あをみ入、
粉壹匁

大きききつ、きに少し大ぶり、總身もえぎにて、目玄ろの色にたり、かしらくれなるにてまや
ぐまのごとし、見事成鳥なれども、木つ、きのごとくかごをやぶる、

小げら

ゑがひ 生八分、あをみ入、
粉壹匁

大ききすゝめに大ぶり、總身くろに白きふちらく、有冬出る、是又かごをやぶる鳥なり、右木つ
つきの類、ひろきかごにぼくを入かふべし、又かなあみのかごやぶれがたし、

〔飼鳥必用下〕青けら啄木

此鳥近在にて、巢組し子を生立る也、雌雄よくわかる也、餌飼鈔にて三分餌なり、

赤けら啄木

此鳥も近在にて子を生立、右鳥の内にも鬼けらと云、少し大ぶりの鳥あり、能心を付見分べし、飼
方右同断

小けら啄木

此鳥は近在にて子をせざる鳥也、頭に少し赤き毛有、是も秋口渡る鳥也、飼方鈔にて五分餌なり、
〔源平盛衰記下〕守屋成啄木鳥事

昔聖徳太子ノ御時、守屋ハ佛法ヲ背キ、太子ハ興之給、互ニ軍ヲ起シ、カドモ、守屋遂ニ被討ケリ、
太子佛法最初ノ天王寺ヲ建立シ給タリケルニ、守屋ガ恐靈、彼ノ伽藍ヲ滅サンガ爲ニ、數千万羽